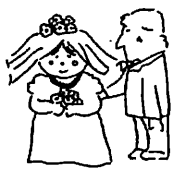
ろくおん通信

発行日：１９９４年　６月１５日
No. ６４号
発行者：盲人情報文化ｾﾝﾀｰ録音製作係

リクエスト図書一覧

以下の図書は利用者から製作依頼を受けている図書です。
グループの方で引き受けて頂いた方の録音技術のアドバイスはさせて頂きます。
是非、一度ご来館ください。お待ちしています。（録音製作係）

依頼されている原本	引き受けて頂いたグループ
○『無功徳58号.59号』／承福寺著：<宗教>	みなわ
○『福祉教育を考える』 村上尚三郎著：<社会科学>	〃
○『ウオッチャーズ』上・下 R.ｸｰﾝﾂ著 ：<小説>	〃
○『俳句会報みまつ８．９．１０月号』／みまつ俳句会編	えくてもあ
○『灯』1月／松本正高編：<詩歌>	ﾃｰﾌﾟﾗｲﾌﾞﾗﾘｰにしのみや
○『童子』4月号／ 月刊俳句誌　辻桃子編：<詩歌>	〃
1『鍼灸学』<東洋医学>	
2『神道の成立』／高取正男著：<宗教>	
3『連如　吉崎布教』／辻川達雄著：<仏教>	
4『1928年。御大典の裏側で』／田中伸尚著：<歴史>	
5『鍼灸医学における実践から理論へパート２』	
6『概説統一原理レベル４』／レベル４編集委員会：<宗教>	
7『一期一会』 豊田都著：<詩歌>	
8『灯』2月～6月 松本正高編：<詩歌>	
9『理想国家日本の条件』大川隆法著：<宗教>	
10『真犯人』 P.ｺｰﾝｳｪﾙ著 ：<小説>	
11『パーフェクト・キル』A.J.ｸｲﾈﾙ著 ：<小説>	
12『黄金を抱いて翔べ』高村薫著 ：<小説>	
13ストーン・シティ 上・下 ﾐｯﾁｪﾙ・ｽﾐｽ著 ：<小説>	

ご案内

第２回 東洋医学研究会

日　時：６月１７日（金）
１５：００～１６：３０
講　師：片山一夫 氏（国立神戸視障ｾﾝﾀｰ）
場　所：盲人情報文化センター　６階
参加費：１００円（資料代等含む）
※毎月第３金曜日実施
次　回：7月15日（金）

第２回 音声訳研修の会

日　時：７月２０日（水）
１３：３０～１５：３０
場　所：盲人情報文化センター　９階
参加費：無料。どなたも参加出来ます。
内　容：チームに分かれて処理の研究を行います。曜日が変わります。
次　回：9月27日（火）

「音声訳」を考える（第15回）

録音の順序と各ポイント　その２

２．（シリーズ名）・著者名・書名（副書名）を読む時の注意点

②：書名はルビを優先して読み、漢字などの説明が必要な時には奥付で行う。

例　『深い河（ディープ・リバー）』遠藤周作著

「遠藤周作著、ディープ・リバー（深い河）テープ全○巻の第１巻・・・・」

＊「深い河」が題名のように思えますが、ルビ優先ですので、「ディープ・リバー」が本の題名になります。「深い河」と言い添えるのは、第１巻の初め枠アナと、最終巻の末尾だけになります。

例　『頭の自遊自在学』森政弘著

「森政弘著、頭の自遊自在学テープ全○巻の第１巻・・・・・・

原本奥付、頭の自遊自在学、ジユウのユウは遊び、１９９４年○月○日初版発行」

③：同じ書名で副書名だけが代わるようなものは、各巻の枠アナにも副書名も含めて入れる。

例　『新宿鮫　無間人形』大沢在昌著／『新宿鮫　屍蘭』大沢在昌著

＊書名を『新宿鮫』だけにすると、内容が違うのに同じ書名になり混乱するので各巻の枠アナすべて副書名まで読む。

④：シリーズ名は、第１巻Ａ面と、最終巻の最後に入れ、入れる順序は著者名の前に入れる。

例　○○文庫、No.○○、○○○、○○著

ブルーバックスNo.１２２、（ナンバー、ヒャクニジュウニ）

３．テープ全○巻の第１巻Ａ面

①“テープ全○巻”を言い忘れないように注意。

最初は、予想の巻数を録音しておきます。「全○巻」のコメントは第１巻の最初の枠アナと最終巻の末尾に録音します。予想巻数が違った時は最初の枠アナの部分を必ず訂正します。ときどき違ったままの時がありますが、全巻数の枠アナを間違ったままにしておくと、せっかく利用者

の為にと入れたコメントが却って混乱させてしまうことになります。

②テープ全１巻の場合の読み方は？

全１巻で完了するものは、「・・・テープ全１巻の第１巻A面・・」と読むのは少し不自然ですので、この場合は「の第１巻」を省略し「テープ全１巻A面・・・」とします。

③“……です”などの言葉をつけない。

４．製作館名（グループ名）

①日本ライトハウス盲人情報文化センター→　○にっぽん　×にほん

５．製作年

①年号は西暦で読む。

図書館で製作する図書カードにはすべて西暦で記入します。

②製作年は編集完了年とする。

製作年は製作開始年ではなく完成年を録音します。編集をしない場合は校正が済み、訂正を完了させた時点の製作年になります。

③最終巻の末尾には製作年月日まで入れる。

◆校正者のチェックポイント

☆製作年は、１巻と最終巻が同じか。

☆編集作業に入る前のテープでは、製作年に不揃いがあったり、校正者名、編集者名のところが空白になっていることがあるが、編集で差し入れるので第二校正者は校正表にあげる必要はない。マスター校正者はチェックして校正表にあげる。

６．音声訳者、校正者、編集者

①校正者は２名までとする。途中で校正者が替わった場合、多く関わった人にする。

②マスター校正者名（第三校正者名）は最終巻の末尾のみ入れる。但し、即マスターのマスター校正者は第二校正者となるので、第１巻A面始めにも入れる。

③即マスター製作の場合、モニターは第一校正者ではなく編集者とする。

つづく

前回の練習問題のポイントの補足

注意！　処理を行う場合の基本は、「まず原文通り読んでみて内容が伝わるかどうかを判断します。カッコ内の文章を移動しなくても読み方でわかるものまで移動したり、「カッコ・・・カッコトジ」とわざわざ言わなくてもわかるものまで読み込んだりするケースもあるようです。先ずは、原文を変えずに正しく伝える方法を考えましょう。カッコ内の文章が「・・・である。」のような時に、カッコの後にある「は」などを前に移動すると、「・・は、・・・・である。」などなり、文章が終了してしまい、後の文書が続かなくなることが多々あります。カッコ内の文章は簡単に移動しないように注意しましょう。

例文１の処理

同音異義語の補足は、どの熟語かがすぐわかるような補足が必要です。漢字を説明することが目的ではありません。漢字を説明するしか方法がない場合は漢字を説明します。
ものをコウセイするコウセイ、厚生省のコウセイ、平等の意味のコウセイ、コウセイ刷りのコウセイ、更正登記とか更生予算のコウセイ、攻勢をかけるのコウセイ、後から生まれるのコウセイ、後の世のコウセイ、惑星のコウセイ、健康のコウに生まれるのコウセイ、地名のコウセイ、

例文２

（　）内の読み方は、「・」「、」の記号で区別していますが、読み方だけでこれをわからせるのは困難です。

・・・四つのグループ、1.肉・卵、2.ミルク、3.野菜・果物、4.穀類に分けた・・・

こんな例は例えば、

「九州へ旅行した時、宮崎（１泊）、鹿児島、熊本（２泊）、福岡（１泊）・・・」

この文章を正しく伝えるには、鹿児島と熊本に２泊したように伝わらない処理が必要です。（　）を読み込んでも混乱します。（２泊）を読むときに「熊本に２泊」と「熊本に」を言い添える必要があります。

例文３．

情断　情報のジョウに断絶のダン

油断　石油のユに、断絶のダン

例文４．

「大黒」大きいに黒の二文字が示す通り・・・

「大黒」大きいに黒と、「大国」大きいに国の音が同じ・・・オオクニヌシノミコシト・・

例文５

ここの（　）の処理は、大雅（池大雅）や竹田（田能村竹田）と処理するべきでしょう。書いてある通りでは通じないでしょう。下線部分が省略してあると見るべきでしょう。相撲の夏（５月）場所を夏場所（５月場所）と読むのと同様です。

【練習問題１】

「芝居」をどう読むか　李応寿

私の長女の名前は「桃教」である。故事から取った名前ではあるが、東京で生まれたので、その発音をもじった名前でもある。この長女の名前を付けて以来、私は「東京」という言葉について、異様なほどの関心を持ち続けてきた。

最近は、この言葉の韓国語訳に関心が向いている。日本ではトウキョウを東京と書き、ＴＯＫＹＯと発音する。しかしこの言葉はカナで書かれる場合は少なく、ほとんどの場合、漢字で書かれている。そのせいか、同じ漢字文化圏の韓国では、漢字をそのままハングル読みしてＴＯＮＧＫＹＯＵＮＧと呼んでいる。

この現象を私は納得しない。というのは、東京はハングルでも「도쿄＝ＴＯＫＹＯ」と訳すべきであって、ＴＯＮＧＫＹＯＵＮＧなどと呼ぶのは、まるで日本人が「済州島」をチェジュドと言わず、サイシュウトウと呼んでいるのと同じことになってしまい、国際化されつつある現代社会にふさわしくない現象だと思っているからである。

しかし先月のこと、日頃の念願であった『日本演劇全史』の韓国語訳に手を出したとたん、私は一つの問題に出会ってしまった。

それは「芝居」という言葉から起こった。芝居という言葉は、もともと芝生からきている。古き時代の芸能が芝生の上で行われたのでそこから派生し、後には、貴族たちの観覧席である桟敷と区別して安価な露天席を指すようになり、やがては、演劇そのものを指す言葉として発展してきたのである。だから、「東京」を「도쿄」と訳す私の論理からすれば、この言葉の歴史的な意味を生かすためには、「芝居」を「演劇」と区別して「시바이」と書き、ＳＨＩＢＡＩと発音しなければならない。

が、こう訳していったのでは切りがない。「役者」と「俳優」はもちろんのこと、「脚本・台本・台帳」などと「戯曲」との間柄になると、問題はもっとややこしくなってくる。その上、相手が専門書だけあって、一つの文章のほとんどがそのまま日本語のハングル読みになってしまう例さえ出てくる。いくら注を付けるにしても、これを翻訳とは言い難い。

先の東京は固有名詞だから「도쿄」とし、芝居は一般名詞だから「演劇」と訳したのでは、文化の奥深いところを軽視するような気がしてならない近ごろの心境である。

【練習問題２】

誤記誤用―行寸評

以下に揚げるものは、ここ一年半ほどの「新潮」貢了紙から拾い集めた実例の数々。もとを糾せば、単純な書き間違い、思い違い、勘違いの類なのでしょうが、それなりに捨てがたい味もありまして・・・。

仮空（架空）
絵空事はあくまで仮のものだから・・・。

可不足なく（過不足）
可もなく不可もなくが頭にあって、つい・・・。

観用植物（観葉植物）
「観賞用の植物」なんだから、それをつづめたら・・・。

米殻（米穀）
やっぱり籾殻は取らないと・・・。

頭骸骨（頭蓋骨）
頭の骸骨ではなく、頭蓋の骨です。念のため。

頭布（頭巾）
「ずきん」というよりは「ターバン」かな・・・。

疎縁（疎遠）
疎きもの汝の名は縁者なり・・・。

思考錯誤（試行錯誤）
ワープロならではの間違いだけど、変換操作も試行しないと・・・。

親不幸（不孝）
親不孝は即ち親の不幸・・・？

不信に思う（不審）
不審に思うぐらいならまだまし、不信に陥ったら取り返しがつかない・・・。

丸坊頭（丸坊主）
イガグリ頭が一目瞭然！？

無暴（無謀）
「無暴運転」なら、無事故無違反間違い無し？！

銘酊（酩酊）
酔い心地の良さは、やはり銘酒にかなわぬようで・・・。

正誤表から・・・その38

語句	誤読	正しい読み	語句	誤読	正しい読み
真物	ホンモノ	シンブツ	間隙	カンカク	カンゲキ
哀訴する	アイセキする	アイソする	岩陥	ガンカン	ｲﾜｵﾁ(競馬専門)
如くんば	シくんば	ゴトくんば	極細	ゴクサイ	ゴクボソ
外為	カワセ	ガイダメ	西端	サイタン	セイタン

二通りの読み方があって各々意味が異なるもの・・・その25

指貫	ﾕﾋﾞﾇｷ 裁縫する時に指にはめる輪 ｻｼﾇｷ 布袴、衣冠、ﾏﾀﾊ真衣、狩衣ﾉ時ﾆ着用ｽﾙ袴	上場	ｼﾞｮｳﾊﾞ 上方で平土間ｦｲｯﾀ語 ｼﾞｮｳｼﾞｮｳ 取引所ﾃﾞ或物件又ﾊ銘柄ｦ売買ﾉ対象ﾄｽﾙｺﾄ
常時	ｼﾞｮｳｼﾞ 一定ﾉ時期、時刻 ｼﾞｮｳﾄｷ 鐘･太鼓ﾃﾞ昼夜ﾉ時刻ｦ知ﾗｾﾀｺﾄ、又、ｿﾉ人	上人	ｳｴﾋﾄ 殿上人、ﾃﾝｼﾞｮｳﾋﾞﾄ ｼｮｳﾆﾝ (仏) 僧位ﾉ名僧 ｼﾞｮｳﾆﾝ 気ﾀﾞﾃﾉｴｲ人
声明	ｾｲﾒｲ 意見主張ﾅﾄﾞｦ公ﾆ発表ｽﾙｺﾄ。 ｼｮｳﾐｮｳ ｲﾝﾄﾞ五明ﾉ日本仏教ﾉ儀式、法要ﾃﾞ僧ﾉ唱ｴﾙ声楽ﾉ総称。	先世	ｾﾝｾ･ｾﾝｾﾞ (仏) 前世 ｾﾝｾｲ 祖先、亡父

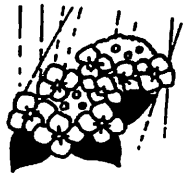
質問コーナー

Q 「墨字の表記を伝える」と「墨字の内容を伝える」との違いは？

A 音声訳は「墨字の表記がわかるように読む事」という主張する人もいます。最近では点訳の世界でも「点訳した文章が、墨字に変換した時もとの文章と同じになるべきだ」と主張する人もいるようです。確かに、墨字の表記がどうなっているのかを、わからせなくてはならない場合もありますが、基本はやはり「墨字の内容を正しく伝える」ことだと思います。

「墨字の表記が再現できるように点訳や音訳をする」という主張は、一見もっとものようにも思えます。しかし、「指で１字づつ読む」という点字の読書で、墨字と同様になるような点訳は、逆に内容をわかりにくくすることにもなります。漢字、カナ、ゴチなどまで区別するには、さらに新たな記号ややたら補足が必要になります。ひらがなばかりの文章だけど、「漢字」「カタカナ」「外国語」「ゴチ」「記号」などがわかるように書いたものを読書するのと似ているでしょう。適切にあれば良くわかりますが、やたら有りすぎると、文章の内容がわからなくなってくるでしょう。点字も音訳もそうですが、視覚障害者に墨字表記がすべて伝わるように変換するとわずらわしく、仮に書かれている形式がわかっても、内容がわかりにくくなります。音声訳者も点訳者も、墨字で表記されている情報をどこまで変換するか、どうやってわかりやすく内容を伝えるのか、工夫しなくてはならないケースはかなり共通しています。漢字の処理、ルビの処理、図表の処理、(　)の処理などです。点字でも音声訳でも視覚障害者が積極的に関わることは重要です。東洋医学の勉強会に点訳者も音声訳者も一緒に参加されていますが、今後、このようなケースが増えてくると思います。（S）

きれいに録音する為に（第５回）



声をクリアーに録音するその２

音声訳者が自身が出す雑音の中でも、口の中の音（舌鳴り、顎の音、入れ歯の音）などは簡単になくす事は出来ません。口の中の音といってもいろいろで、口の中に水分が多いから出る音なのか、入れ歯の具合が悪くて出ている音なのか、顎の骨の構造から来る場合もあるようです。また、口を開ける時に出る音もあります。マイクの距離が近ければ近い程、今まで問題にならなかったさまざまな問題がでてきます。口の中の音は個人差がありますので原因を知ることが大切です。人によっては疲れてきたら目立ってくる人もあれば、最初は目立っても読みなれるとなくなってくる人もあるようです。前者であれば、適度の休憩が必要ですし、後者であれば、少し長くウォーミングアップを必要とします。

構造的な問題で口の音がどうしても入る場合は、録音する方法を工夫しなくてはなりません。先ず、マイクと口との距離を離してみます。家庭録音の場合、１５cm～２０cm位で録音する場合が一般的ですので、口の中の音もよく拾うからです。口の音が目立つ人はマイクとの距離を離し、さらにマイク先が直接口に向くようにせず、少しずれるように角度を変えます。あまり極端に角度を変えると録音不良の原因になりますので注意して下さい。少し角度を変えるのはマイクの感度をわざと落とす為です。しかし、あまり声量のない人が距離を離すとボリュウムを最大にしても適正レベルにならない事もあります。声量の無い人は、マイクの感度のよいもの（例えばエレクトレットコンデンサーマイク）を使用する方が良い場合もあります。口の中の音は、特にスタジオなどのように周りが静かな部屋で録音するときなどは目立ってきますので注意しましょう。

ドルビースイッチはオフで録音する

録音する時、ドルビーをオンにして録音されている方がありますが、ドルビーはオフにして録音します。カセットデッキで再生した時に、シャー音が目立つのものは、ドルビーをオンにして録音されています。ドルビー機能が付いている機械で゛再生すればシャー音は消えますが、機能の無いもので聞く場合が普通ですからドルビーは使用しないようにしましょう。

使用するカセットテープのタイプ

録音用のカセットテープは、何種類かありますが、録音図書用にはタイプＩを使用します。タイプⅡやタイプⅢはテープの種類が違う為に、録音のレベルも変えなくてはなりません。また、タイプＩ以外のテープは、市販のイレーサーでは消去することができません。消して再度使うといったことができませんので困ることがあります。録音の場合、タイプＩを使用し、録音ボリュウムはピークレベルメーターが常時、赤いところに届く程度で行います。小さ過ぎても、大きすぎても時間がたつと、「転写」の症状が強く起こります。また、レベルが大きすぎると声が割れたり、小さすぎるとテープヒス（シャー音）が大きくなり聞き辛くなるなどの問題が出てきます。

つづく